

ところが、重度後遺障害の場合は、本人が生存してますので、本人生活費の相殺が出来ません。むしろ、医療や介護にかかわる費用が莫大となり、保障額は死亡時に比較して遙かに高くなります。日本では社会保障の中で傷病手当や障害年金の制度があるものの、決して十分な保障とは言えません。それでも病気やけがによる長期就業不能が、働く人々にとって最も大きいリスクであるとの認識はほとんどありません。

病気やけがによる所得の逸失を補てんする保険の一つに医療保険（所得補償としての機能はあまり意識されてません）があります。その医療保険も注意する点があります。

1つ目は、1入院の保障期間が短くなっている点です。1入院1,000日を超える保障の医療保険もありますが、保険会社の価格競争が激しくなり、1入院が60日保障という超短期保障のタイプが各社から販売され、テレビでも大々的に広告が打ち出されています。

1入院60日というのは、はたして保険化する必要性があるのか疑問です。1日当たりの入院給付5千円の場合、最大30万円（手術給付金は含みません）が受け取れますが、30万円の現金を準備した方が手っ取り早いです。また、1泊2日とか日帰り入院も保障されますというのも、必要性があるとは思えません。2日の入院で家計が破綻する人は誰もいません。その分、保険料が高くなっていることを認識してください。

2つ目は、当たり前ですが、医療保険は入院しないと支払われません。大腿部の骨折をした場合、1~2ヶ月ほど入院しますが、あとは骨折部の固定と安静、リハビリだけとなれば、その後1~2ヶ月間は働くことが出来ませんので、自宅での療養となります。その場合、当初の入院期間のみ医療保険の支払いとなりますが、退院後は保障されません。

以上の2点を補えることができる保険が所得補償保険です。特にてん補期間の長い長期障害所得補償保険（LTD）は働いている期間（最長60歳・70歳まで）をしっかり保障しますので、自宅療養を含む就業不能リスクのカバーに最適です。

医療保険も最近は終身保障タイプなどの品揃えが豊富となり、60歳以降セカンドライフ時の医療保障も担保しやすくなりました。働き盛りは長期障害所得補償保険と終身医療保険の2階建てでしっかりリスクカバーをし、セカンドライフ時には終身医療保険のみでカバーすれば万全です。終身医療保険はできれば働いている間に保険料の支払いを終えた方が良いと思います。そうすれば年金受給時に保障コストを支払い続ける必要がありません。

話はかなり紆余曲折しましたが、皆様の保障は万全でしょうか。

1. リスクのクスリ

今回は事前対策の実施について述べたいと思います。

☆リスクコントロールの意義・目的

リスクコントロールとは、想定される損害規模の軽減と発生頻度の低減を行うことで、リスクを制御する方法です。リスクコントロール手法は、リスクそのものを回避する方法と、防止策のようにリスクを除去する方法とに分けて考える事ができます。

☆リスクコントロールの手法

リスクコントロール手法は、リスクの特性によって選択または組み合わせで用いられます。代表的なリスクコントロール手法の分類と各手法の特性を上げてみたいと思います。

(1) 回避

発生する頻度が高く、しかも発生した時の損害が大きいリスクの場合、最も一般的な処理

方法はリスクを回避する事です。回避とは「リスクの発生にかかわる人・物・活動とすべての関係を絶つこと」です。例えば、製品の欠陥による事故の損害賠償請求を受けるリスクを避けるためにその製品を製造しないなどが考えられます。この手法の特徴は、損害発生の可能性をゼロにできることであります。

しかし、リスクを回避することは利得のチャンスをも失うことになり、また企業活動をしている限り全てのリスクを回避できるわけではありません。

なお、あるリスクについて回避という処理方法を選択した場合は、その選択が別のリスクの発生に影響を与えないかという点にも注意しなければなりません。

(2) 低減……次回に続きます。

2. FPまいんど

10月18日に日本FP協会山形支部主催でFPのための研修会が開催されました。

この研修会はFPの資格者が資格の更新(2年)に所定の単位を所得しなければならないので、そのための研修会なのです。一般の方には公開されていません。

今回は、東京よりFPアソシエイツ&コンサルティング(株)の神戸孝氏を迎え、FPが行う資産運用アドバイスの講演がありました。

神戸氏の話は、社会構造の変化から始まりました。江戸時代は封建社会で鎖国状態だったのが、明治維新により国家主義・軍国主義に変わり、第二次世界大戦以降は企業主義・官僚主義・疑似社会主義の構造となり、バブル崩壊後は個人が主体の個人民主主義の時代になりつつあるという持論でした。また、日本民族バッファロー論という面白い視点で日本人を表現していました。欧米では、例えばピューマのように自分個人の考えと価値観で単独で行動するタイプの人が多いが、日本人の場合、バッファローのようにある日突然、群をなして居場所を変えていく……現在は変化があまりないと感じていますが、過去の歴史を見ても、ある大きなきっかけで突然変化する事がありうるとのこと。

変化のポイントとして、これからは機会平等、結果公正の社会構造。不動産から金融資産にシフト。2006年に人口のピークが訪れ、それ以降は減少の一途。預貯金中心の「社会主義的運用」から有価証券中心の「民主主義的運用」へ。等を挙げていました。

預貯金等も、ペイオフなどによるデフォルトリスクがあり、受け皿金融機関が決まるなど処理方法が決定するまで、資金の凍結が最も恐ろしい。むしろ、お金持ちでない方がリスクが大きいと指摘していました。

資産運用におけるポートフォリオの作り方として、まず始めに運用目的の明確化そして資金を性格別に4つに分けることを言っていました。

- ①流動性資金 いざというときいつでもおろせるお金…生活費の約3ヶ月が目安
- ②使用予定資金 貯蓄を取り崩して、これから5年以内に使うことが決まっているか使う可能性のあるお金…入学費用、住宅購入頭金、車購入資金、海外旅行等
- ③確実性資金 安全第一を考えるべきお金
- ④利殖性資金 ある程度収益性を求めるお金

そして、資金の性格別に金融商品を選択します。

- ①流動性資金 流動性に優れた商品……
- ②使用予定資金 安全性+流動性を備えた商品……

③確実性資金 安全性に優れた商品……

④利殖性資金 収益性に優れた商品……

そして、金利や株式市場の状況に応じて組み替えを行います。

運用は長期が基本で複利効果をねらいます。そして、複利効果を最大限に享受するためにはブレ幅というリスクを小さくすることが必要です。分散投資は値動きの異なる金融商品を組み合わせるのが基本となります。キーワードは長期＋分散運用です。

その後詳細な各論に入っていますが、紙面の関係上割愛させていただきます。大変有意義な講演でした。懇親の場でもお話をさせていただきましたが、神戸氏の様なFPが数多く出現することを望みます。

3. 新商品紹介

☆アリコジャパンよりISユニバーサル保険（積立利率変動型保障期間自由設計保険）が発売となりました。この保険の大きな特徴として、設計の自由度が高いことがまず挙げられます。保険料、保障額、保険期間の3要素のうち2つの要素を決めるだけで設計が可能となります。次に、保険料の払込に自在性があります。保険料支払い停止・再開可能。保険料の増額（保険期間の延長）も可能。そして、積立部分は最低1.5%保証で毎月変動します。

☆アクサ生命より終身医療保険1095のⅢ型が発売されました。

この商品は代理店専用商品と位置づけられていますので、直販社員ルートでは販売されておりません。特徴は、1入院最大1095日という長期の入院保障です。ただし、このタイプのみ手術給付金不担保特約付なので手術給付金はありません。

この保険の美点は、最大1095日の長期保障もさることながら、死亡給付金の支払い方法にあると思います。死亡給付金は当初入院日額の10倍となっていますが、主契約の解約返戻金が当初の死亡給付金額を超えた場合、解約返戻金相当額で支払われます。一見当たり前のことと思われるが、他の大多数の生命保険会社では、解約返戻金がたとえ2百数十万円ほどあっても、死亡した場合50万円とか100万円の給付で終了します。これは、契約者の既得権利を無視した、保険会社の暴挙と言えます。

4. 耳より情報

11月20日ごろに小学館より青柳正規：監修、ビジュアル・ワイド『世界遺産』が発売されます。定価は6,000円＋消費税ですがこのレターを読まれた読者に特別ご案内。

11月14日までお申し込みの方にここだけ価格、消費税込み5,500円

10冊限定（現在残り6冊）早い者勝ち。お申込は当店まで。商品は本屋さんから直接お届けとなります。世界遺産全754件を完全網羅した唯一の完全版です。

発行者

山形安全情報企画 武田幸夫

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.neweb.ne.jp